

3 事業の点検・評価

分野1 生涯学習の充実

施策		(1) 広がりや深まりのある生涯学習の推進	
項目		①多様なメディアを活用した生涯学習情報の発信	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
生涯学習の普及啓発 【生涯学習課】	市民が積極的に生涯学習に取り組めるよう、情報収集・提供し普及啓発し実践につなげる	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報にのへやホームページ、コミュニティFMを活用し情報提供した。 ・ 生活に必要な知識や技能の習得、教養を身につけたりする学習機会を提供した。 <p>高齢者のための講演会：100人</p>	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報にのへやホームページ、コミュニティFMを活用した情報提供を行った。 ・ 高齢者のための健康講演会は、感染症対策を講じ開催したが、その他の講座はコロナ禍により中止した。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供の機会としてホームページやコミュニティFMの活用を推進する。内容の充実を図り、感染対策に十分留意し、市民の積極的な学習意欲の醸成に努める。
項目		②市民の「学び直し」など生涯学習活動の支援	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
放送大学岩手学習センター二戸校の周知・環境整備 【生涯学習課】	放送大学岩手学習センター二戸校の周知や利用環境の整備を図り、市民が気軽に立ち寄ることのできる学習拠点として活用されることを目指す	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報にのへに入学生募集や大学説明会の案内を2回掲載した他、ホームページやコミュニティFMにより周知した。 ・ DVDやCDにおいて視聴できる外国語科目を多くするように努めた。 <p>【数値目標】 二戸校利用者数(人) H32：延べ 80</p>	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍による予防対策として滞在時間の短縮推奨等の対応をしたため、利用者が減少した。しかし、利用者数は県内3か所の学習センターのうち、最も多かった。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症対策を講じながら、学び直しへの意識啓発、周知・啓発を継続し、認知度の向上に努めるとともに、多様な科目を配架し、利用者の関心を高めるよう努める。 <p>【数値目標の実績】 二戸校利用者数(人) R2：延べ53 (対H32目標66.3%)</p>
項目		③学習成果の活用	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
ホームページ等による指導者情報の提供 【生涯学習課】	市民の社会貢献意欲を後押しするため、社会教育活動で学んだ成果や、自らが社会で学んできた知識・経験を生かすことができる仕組みを構築する	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報「こしゃーる」欄とホームページを活用し、社会教育活動団体等を紹介した。 	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症のため、社会教育団体の活動が減少したものの、活動紹介や、成果の公開は広報「こしゃーる」欄を活用し、情報発信に努めた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育団体等の活動と市民とのニーズをつなぐ仕組みづくりを目指す。

分野2 学校教育の充実

施策 (1) 学力向上対策の推進			
項目 ①学力と創造性を伸ばす教育の推進			
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
学力向上推進事業 (東京学芸大学連携事業を含む)	授業力向上のための教員研修と学力向上のための授業実践の充実に努め、児童生徒の学力向上を図る	<p>[継続]</p> <p>1 派遣研修 ・学力向上先進地視察研修 ・理科研修 ・3年目研修 (※コロナ禍により中止)</p> <p>2 授業力向上研修 ・R2.7.7 小学校国語科授業力向上研修 ・R2.10.16 中学校数学科授業力向上研修 (※コロナ禍により中止)</p> <p>3 学力向上推進実践校指定 ・石切所小学校へ学習支援員を1名配置し、主に算数科の授業で複数による指導を展開した。</p> <p>4 研究授業訪問・学力向上ヒアリング ・研究授業訪問は10校20授業を訪問 ・学力向上ヒアリングはR3.1.5～7に実施</p> <p>5 公開講座 ・教員の研修ニーズに応えるため、講座1「発達障がいの理解と対応」を開設した。 (※講座2「プログラミング教育」は、コロナ禍により中止)</p> <p>【数値目標】</p> <p>1 全国学調算数・数学正答率 (国を100とみた場合) H32 小6：101 中3：101</p> <p>2 県学調国語正答率 (県を100とみた場合) H32 小5：101 中1：101 中2：101</p>	<p>◎評価 【 A 】</p> <p>1 国語、算数・数学の調査結果 ・令和2年度全国学力・学習状況調査及び令和2年度岩手県学習定着度状況調査は、コロナ禍により中止</p> <p>2 研究授業訪問、学力向上ヒアリング ・研究授業訪問により、個別の研修を増やし授業改善のための助言を行った。また、学力向上ヒアリングにより、学校と教育委員会が互いに情報を共有し、PDCAサイクルを確認しながら学力向上に取り組むことができた。</p> <p>【今後の方向性等】</p> <p>・現在の学力の状態を維持するために、これまでの取組を継続する。 ・中学校1年生を対象に4月に実施する新入生学調の結果が芳しくない。連続性を持たせた指導、これまでに身に付けてきた力をうまく引き出す指導等を展開するために、小中連携を中心に据えた授業改善の取組を継続して展開していく。</p> <p>【数値目標の実績】</p> <p>1 全国学調算数・数学正答率 (国を100とみた場合) R2 小6：未実施 中3：未実施</p> <p>2 県学調国語正答率 (県を100とみた場合) R2 小5：未実施 中1：未実施 中2：未実施</p>
【教育企画課】			

施策 (2) 豊かな心を育む教育の充実			
項目		①豊かな人間性の育成とよい人間関係づくり	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
道德教育の充実 【教育企画課】	道德教育について教員の指導力の向上を図り、他人を思いやり良好な人間関係を築くことができる子どもを育てる	[継続] ・指導主事による、校内研究会や研修等の助言 ・道德授業パワーアップセミナーや道德授業力向上セミナー研修は、予定していたもののコロナ禍により中止	◎評価 【 A 】 ・指導主事が道德の授業を参観し、助言を行なうことで、よりよい道德教育の推進を図ることができた。 【今後の方向性等】 ・教科として実施されるようになった道德について、各校の授業改善の取組を支援していく。
教育相談の充実 【教育企画課】	教育相談・支援体制を充実し、子どもたちが安心して学習し、学校生活を送ることができることを目指す	[継続] ・教育相談員学校訪問 ・相談件数 22件 ・各校に適応指導教室のチラシを配布し、適応指導教室「おあしす」の周知を図った。	◎評価 【 A 】 ・欠席がちな児童生徒やその担任、保護者からの相談に対応したことで、不登校が長期化するのを防ぐことができた。 【今後の方向性等】 ・学校との連携を図り、情報共有に努め、教育相談を通して、不適応児童生徒の不安や悩みを解消していく。
項目		②生徒指導の充実	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
不登校児童生徒へのきめ細やかな指導 【教育企画課】	一人ひとりに寄り添った相談・支援体制の充実を図る	[継続] ・子育て支援課や児童相談所との情報共有 ・不適応状況報告をもとにした学校の対応への指導・助言 ・不登校児童生徒を抱える学校への訪問 ・適応指導教室「おあしす」の運営 ・不登校児童生徒数 (R2) 小：2人、中：13人 【数値目標】 不登校児童生徒の割合 (%) 小 H32 : 0.19 中 H32 : 1.80	◎評価 【 B 】 ・学校訪問を通して、不適応児童生徒及び心配される児童生徒への対応について助言を行うことができた。 ・各学校で行われる適応支援会議において、各学校の取組の在り方について助言を行うことができた。 【今後の方向性等】 ・各校と緊密に連携を図り、不適応児童生徒への継続した対応について助言する。児童生徒のわずかな変化を見逃さない体制づくりを支援していく。 【数値目標の実績】 不登校児童生徒の割合 (%) 小 R2 : 0.18 (対H32目標 105%) 中 R2 : 2.11 (対H32目標 83%)
いじめ問題に対する確実な取組 【教育企画課】	未然防止・早期発見、早期の組織的な対応の取組を継続する	[継続] ・学校生活アンケートの実施 (6月) ・校長会議での早期対応の助言 ・スクールソーシャルワーカー等による学校訪問や教育相談の実施	◎評価 【 A 】 ・市内の児童生徒のいじめの実態を把握することができた。各学校でいじめ防止基本方針の見直しを行ったり、いじめに関する校内研修を行ったりすることで、「いじめ」の定義や対応についての理解が浸透することにつながった。 【今後の方向性等】 ・いじめの認知や学校の対応についての校内研修を実施することで、各学校の組織的対応力を高めていく。

事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
各関係機関との情報共有体制の構築及び連携の充実 【教育企画課】	関係機関と連携し、児童生徒や家庭、学校への支援の充実に努める	[継続] ・いじめ防止対策委員会の実施（11月）	◎評価 【 A 】 ・「学校生活アンケート」結果を基に、市内の児童生徒のいじめの状況を関係機関で共有するとともに、重大事態発生時の対応を確認することができた。 [今後の方向性等] ・関係機関と連携を図りながら、いじめの早期発見や早期対応に努めていく。
項目	③郷土教育の推進		
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
郷土教育の推進 【教育企画課】	二戸市の先人、自然、歴史・文化等の学習を通し、郷土に対する理解を深め、愛着心や誇りを育てるとともに、次代を担う人材の育成を目指す	[継続] ・副読本「二戸市の先人たち」を小学校5年生から配付することにより、2年間をかけて九戸政実等9名の先人に触れることができるようにした。 ・地域素材を活用した地域学習の推進と、それに関わる情報提供をした。	◎評価 【 A 】 ・2年間という長いスパンで、見通しをもって取り組んでもらうことができた。 [今後の方向性等] ・2年間かけて全員が「一度は全ての内容を読んだことがある」という状況にすることを目標に取組を進める。「ふるさと探訪塾」とも関係付けながら、見学の事前学習や事後指導に生かしてもらうように働きかける。
小学校副読本の充実及び活用 【教育企画課】		[継続] ・副読本「わたしたちの二戸市」を活用することで、地域への関心を高め、資料を活用する力の育成を図った。	◎評価 【 A 】 ・小学校3・4年生の社会科授業の副読本として、二戸市の地形、農業・商業・工業、公共施設等について、学習での活用を進めることができた。一部改訂で、二戸の自然災害について取り入れることができた。 [今後の方向性等] ・令和5年度に全面改訂を行うために、令和4年度から改訂準備を進める。 ・授業での活用を促すために、副読本活用事例の紹介を行う。
項目	④社会の変化に対応した多様な教育の推進		
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
国際理解教育の推進 【教育企画課】	異なる文化や伝統を理解し、国際社会の発展に貢献できる児童生徒を育成する	[継続] ・コロナ禍により、中高生海外派遣研修事業及び中学生異文化交流研修事業は中止とした。 ・小学校の英語教育が必修化され、3～6年生の学級担任をサポートするとともにグローバル社会に対応した人材育成が図られるよう、英語教育アドバイザー1名を配置し、市内小学校を巡回して英語活動を支援した。	◎評価 【 A 】 ・英語教育アドバイザーが市内小中学校を巡回しながら教員の英語活動を支援することで、円滑な授業を行うことができた。 [今後の方向性等] ・中高生海外派遣研修及び中高生異文化交流事業については、事業目的を踏まえた上で、コロナ禍における実施について検討していく。 ・学級担任をサポートし、英語活動を支援することで円滑な授業となるよう支援する。

事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
キャリア教育の推進 【教育企画課】	子ども一人ひとりが主体的に自己の進路を選択、決定できる能力やしっかりとした勤労観・職業観を身に付け、社会の一員として自立する力を養う	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校のキャリア教育全体計画の提出と全体計画の見直しの支援 ・体験的な学習の充実に向けた支援 ・キャリアパスポートの配布 	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校のキャリア教育の計画及び実施状況を把握し、指導の充実を図るよう助言した。 ・中学校の職場体験はコロナ禍のため中止。 ・キャリアパスポートの配布を実施した。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、中学校の職場体験2日以上と、事後指導5時間以上の確実な実施に向けた働きかけに努める。

施策 (3) 健康・安全教育の推進			
項目 ①健康・安全教育の充実			
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
学校保健の推進 【教育企画課】	児童生徒が健康で明るい学校生活を送れるよう、全ての児童生徒・保護者が、健康や食事、学校保健衛生の改善向上に関心を持ち、健康的な生活習慣や運動習慣を身に付ける	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の早期発見、早期治療のため、内科検診、歯科検診、尿検査等を実施した。 ・学校環境衛生検査を実施し、学校環境の把握と環境の改善・整備に努めた。 ・学校保健会等への補助を実施し、学校と医療機関、行政が連携し、健康に関する指導方法の協議や研究大会を開催した。 <p>・肥満対策については、二戸地区学校医連絡協議会において、医療機関・学校・各教育委員会、保健師、栄養士により構成する小委員会を設け、分析とその対応について二戸地区全体で研究を行った。</p> <p>【数値目標】 肥満傾向児童生徒の割合(%) 小4 H32 : 10.5 中1 H32 : 15.4</p>	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関等と連携し、地域全体で児童生徒の健康を維持・増進するための取組を実施した。また、肥満対策についても、学校・医療機関・保護者等が一体となり対策を推進した。 ・肥満傾向児童生徒の割合は、前年に比べ、小学校4年生、中学校1年生ともに増加したが、中学校1年生については、概ね数値目標を達成することができた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と医療機関等との連携を密にして、地域全体で健康教育の推進に努める。 ・肥満対策は、学校、医療機関、保護者等が、改善に向けて取り組むことが必要であることから、学校における児童生徒への教育、各種検診を進めるほか、研究大会などの場を通じて、保護者への健康教育を推進する。 <p>【数値目標の実績】 肥満傾向児童生徒の割合(%) 小4 R2 : 18.3 (対H32目標 25.7%) 中1 R2 : 14.9 (対H32目標 103.2%)</p>
安全教育の推進 【教育企画課】	児童生徒の安全安心な学校生活の確保と安全教育の推進	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校で交通安全教室を開催し、児童生徒に対し交通ルールや自転車の安全運転の指導を行った。 ・スクールガードによる地域の見守りを実施した。 ・二戸市通学路交通安全プログラムについて、対策箇所の解消に向け点検、確認を行った。また、保護者に対し満足度調査を実施し、対策箇所に関して実態を把握した。 ・登下校安全プログラムによる防犯の観点による通学路の点検を実施した。 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう、地域と一体となった取組を予定どおり実施し、安全教育の推進につながった。 ・通学路の安全対策は、関係機関と連携し危険箇所の解消に向けて、順次取組を進めている。 ・全国で発生した通学時の事件・事故を受けて、市内小中学校の通学路の点検を実施した。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して取り組むことで、児童生徒に交通安全についての意識の定着を促す。通学路の安全確保のため、関係機関や地域と連携し、危険箇所の把握に努める。

②学校給食の充実				
項目	事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
	栄養教諭等による食に関する指導	食に関する指導のさらなる充実を図り、望ましい食習慣と健全で豊かな食生活を実践する力を習得させる	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による食に関する指導の授業を46回、給食訪問は24回実施した。生産者と共に給食を食べる交流給食会は、コロナ禍により中止とした。 ・毎月家庭に配布する「こんだてのおしらせ」及び「二戸（にこ）食だより」の現地取材を実施し、生産者の取り組みを紹介するなど地産地消の話題や家庭における食の正しい知識と習慣の普及を図った。 ・メニューごと、学校ごとの残食の量を計測し、残食量削減のための基礎データを取得。結果、メニューと残食量の分析が可能となり、献立作成の参考となった。 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度においては、コロナ禍により食に関する指導、給食訪問の実施回数が減少したが、食に関する指導を継続することで、子供たちや保護者に正しい食事の知識や習慣性が浸透しつつある。 また、内容も学年に合わせたテーマにより、教材を使って様々工夫し、体験的に学べる学習方法を取り入れるなどした結果、学校等の事後アンケートでは、頑張って食べるようになった、食習慣に改善が見られたなど年々効果が表れ、高い評価を得ている。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も食に関する指導の充実を図るとともに、「二戸（にこ）食だより」や「こんだてのおしらせ」などにより、生産者の紹介などを通して地場産品の大切さと地産地消の意義を学び、食に関する正しい知識と習慣の普及に努める。交流給食会は形を変えての実施を検討する。
	【学校給食センター】			

施策 (4) 幼児教育・特別支援教育等の充実

①幼児教育の支援と連携				
項目	事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
	幼児教育への支援	関係部局との連携を図り、幼児及びその保護者に対する相談や支援を充実する	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5歳児発達相談へ毎回、職員を派遣し、保護者向けの幼児教育に関する説明を担当した。 ・社会福祉協議会「早期発達相談」や発達支援センター「風」へ講師を派遣し、「就学に向けて」の講義を行った。 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の講話により、子どもへの関わり方についての理解が深まっただけでなく、保護者としての自覚を促すことにもつながった。 ・早期発達相談や発達支援センターでの学習会で就学に向けての講義を行ったことにより、就学相談につなげることができた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園や保育所等で開催される保護者学習会等があれば、講師派遣を行う。
	【教育企画課】			
	幼保小連携の推進	小学校生活へ円滑に適応できるよう、情報共有と相互理解が図られる体制を構築する	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連携推進会議の在り方について協議し、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの周知を行った。 ・市内の小学校と保育所・認定こども園等から各1名以上参加する「幼保小連携研修会」において、石切所小学校の授業を参観し、協議と情報交換会を行った。 ・幼児連絡表を就学時検診に活用した。 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携推進会議では、隔年で小学校と保育所・こども園等の授業を見合うという道筋を示すことができ、参観授業・保育の順番もほぼ確定できた。また、スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムについて情報提供し、作成の必要性を周知することができた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の授業や活動場面の参観を通して「学びの進め方の違い」についての理解を更に深め、スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムの改善につなげる。
	【教育企画課】			

項目		②特別支援教育の充実	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
特別支援教育の充実 【教育企画課】	児童生徒の状況に応じた学習環境の整備やきめ細やかな支援の在り方の検討を通して、支援の充実を図る	<p>[継続・一部新規]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援委員会の開催 特別な支援を要する児童生徒一人ひとりについて、望ましい学習環境や支援のあり方を検討するために年3回開催した。 (対象者135人) ・教育支援委員会実務者会議の開催(新規) 各学校で実際に指導に当たる特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任から、児童生徒の情報を収集するとともに、支援の方向性について検討した。 ・個別支援ファイルの作成と活用 特別な支援を要する就学予定児、児童生徒を対象に、個別支援ファイルを作成し、支援計画の立案や引継ぎ資料として活用を行った。 ・教育委員会の職員が市内全ての保育所、認定こども園、関係施設を訪問し、就学支援に向けた参観と情報交換を行った。 (保育所4か所、こども園4か所、発達支援センター「風」を訪問) 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学予定児に対して、関係機関や専門委員との連携により、早い時期からの相談を実施したことで、望ましい就学先を決定することができた。 ・対象児童生徒の増加により、教育支援委員会において、今まではきめ細かな教育支援にまでは至らなかったが、実務者会議により若干支援の方向性についても検討できた。 ・個別支援ファイルを活用しながら進学先等に対する引継ぎを行ったことで、望ましい対応の継続につながった。 ・教育委員会職員の訪問により、スムーズな就学支援を行うことができた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりの状況に応じた適切な支援を実施するためにこれまでの取組を継続する。より良い就学支援のために、特別支援学級担当者から情報を得る機会を設定する。
特別支援教育支援員の配置 【教育企画課】	特別な支援を要する児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、支援員を配置し、支援の充実を図る	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員の学校への配置 特別支援教育支援員14人を、小学校6校、中学校2校に配置し、特別な支援を要する児童生徒に対し、きめ細やかな支援を行った。 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する児童生徒への支援の充実だけでなく、学級全体の円滑な運営にも貢献することができた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な支援の実施と円滑な学級運営のためにも、これまでの取組の継続と適切な配置に取り組む。そのためには、児童生徒及び学校の状況の把握に努める。
特別支援学校開設の要望 【教育企画課】	望ましい教育環境を整えるために、小中高一貫の独立した支援学校の設置を目指す	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県知事及び県教育委員会に対して、小中高等学校からなる独立した支援学校の設置を要望した。 	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立特別支援学校整備計画（R3～10）において、二戸地区・福岡工業高校校地内に小中高等学校からなる特別支援学校設置が盛り込まれ、これまでの要望が実った。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県では、「可能な限り早期開校を目指す」としていることから、その動きを注視していく。
項目		③高等学校教育への要請	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
高等学校教育の充実と環境整備の要請 【教育企画課】	中学校を卒業した児童生徒が能力や個性を伸ばせるよう、高等学校教育の充実と環境整備を推進する	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県に対し、新たな県立高等学校再編計画（案）において、統合案が示される福岡工業高校の存続と2学科の維持について要望した。 また、校舎全体の老朽化が顕著となっている福岡高校の校舎全面改築について要望した。 	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡工業高校の特長や魅力や福岡高校の教育環境の整備の必要性等、両校の教育の充実及び環境整備について伝えることができた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内高等学校の魅力を高める事業に対し支援を行い、入学者の増加を図る。

施策	(5) 教育環境の整備・充実		
項目	①学習環境の充実		
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
就学援助 【教育企画課】	経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学用品費等の各種経費の一部を補助することで、保護者の経済的負担を軽減するとともに、教育の機会均等を確保する	[継続] <ul style="list-style-type: none"> ・要保護及び準要保護児童生徒（280人）の保護者に対して就学に必要な経費の一部を援助した。 ・年間を通して申請を受け付け、必要ときに援助を受けられる環境づくりに努めた。 ・令和2年度新入学児童生徒への学用品費の入学前支給を実施した。 	◎評価 【 A 】 <ul style="list-style-type: none"> ・援助が必要と認められる児童生徒の保護者に対し適切に援助を行い、経済的負担軽減と教育の機会均等の確保につながった。 [今後の方向性等] <ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携し、保護者へ制度内容の周知を図りながら、適切に支援を行っていく。
育英資金貸与事業 【教育企画課】	経済的理由により修学が困難な者に対して、修学の機会を確保し、人材を育成する	[継続] <ul style="list-style-type: none"> ・高校等7人、大学等42人、計49人に貸与した（うち、令和2年度新規貸与生は高校等2人、大学等13人の計15人）。 ・地元就職者に対する返還免除は11件であった。 ・貸付返還金の滞納額は前年度比で減少しており、滞納の解消に努めた。 	◎評価 【 A 】 <ul style="list-style-type: none"> ・貸与希望者は減少傾向にあるが、貸与事業を円滑に実施し、修学の機会確保に努めた。 また、平成29年度より創設した返還免除等は利用者も一定数おり、定住促進に寄与した。 ・貸付返還金の滞納額は前年度比で減少しており、滞納の解消に向け着実に取り組みを進めることができた。 [今後の方向性等] <ul style="list-style-type: none"> ・貸与希望者に対する円滑な貸与の実施を行うとともに、返還金の滞納者に対し納付に向けた働きかけを行っていく。
遠距離通学者への支援の充実 【教育企画課】	遠隔地から通学する児童生徒の保護者に対し、通学費の一部を補助することで、経済的負担の軽減を図る	[継続] <ul style="list-style-type: none"> ・遠距離通学費補助として、小学校において通学距離が片道4km、中学校においては片道6km以上の児童生徒で、公共交通機関を利用して通学している者の保護者に対して、通学にかかる経費の1/2を補助した。また、学校統合条件による補助を行った。 ・児童生徒を輸送するスクールバスを運行することによって、遠距離通学児童生徒の通学手段の確保と、保護者の経済的負担の軽減を図った。また、老朽化した浄法寺地区のスクールバス1台を更新した。 	◎評価 【 A 】 <ul style="list-style-type: none"> ・遠距離通学や学校統合条件の児童生徒の保護者に対し必要な支援を行い、負担軽減へとつながった。 [今後の方向性等] <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して、通学費補助及びスクールバスの運行を行う。また、老朽化したスクールバスの更新を随時行う。

事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
<p>図書に親しむまち推進事業</p> <p>【教育企画課】</p>	<p>幼児期から本に親しむ機会や環境を整えることで、読書意欲の向上及び読書習慣の定着を図る</p>	<p>【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒への図書の贈呈として、市内全小中学生に、希望の図書を贈呈した。 (小1, 108冊、中629冊、計1, 737冊) ・学校図書館支援員(3人)の配置により、各小中学校の巡回訪問を行い、蔵書の管理、図書室の環境整備の支援等を実施した。 ・こども新聞の活用 <p>【数値目標】</p> <p>学校図書標準冊数達成校(校)</p> <p>小 H32: 8 中 H32: 4 (※H30 御返地中統合)</p>	<p>◎評価 【A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての児童生徒へ図書贈呈を行うとともに、学校図書館支援員の配置により学校図書室の環境を整備した。また、学校図書標準冊数については、数値目標を達成し、読書意欲の向上や読書習慣の定着につながった。 ・小学校5・6年生に「こども新聞」の配布を行ったことにより、社会への関心が高まり、国内外の社会の動きに目を向ける児童が多くなった。また、新聞記事をきっかけとして親子の会話が増えたという声も聞かれた。 <p>【今後の方向性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書の贈呈をきっかけに、読書習慣の定着につながるよう、図書の種類や支援の内容を工夫しながら、継続的に事業を推進する。 <p>【数値目標の実績】</p> <p>学校図書標準冊数達成校(校)</p> <p>小 R2: 8 (対H32目標 100%) 中 R2: 3 (対目標 100%)</p>
<p>ICT(情報通信技術)機器の整備、情報教育の推進</p> <p>【教育企画課】</p>	<p>社会の情報化の進展に対応した情報教育の推進</p>	<p>【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育用コンピュータ整備事業 (GIGAスクール推進事業) 文部科学省より示された「GIGAスクール構想」の実現に向け、ネットワーク環境とICT機器を整備した。 <ol style="list-style-type: none"> 1 校内通信ネットワークの整備 2 児童生徒1人1台端末の整備 3 家庭学習のための通信機器の整備 4 学校からの遠隔学習機器の整備 5 電子黒板の整備 6 学習用ドリルソフトの導入 	<p>◎評価 【A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想の実現に向けた環境を整備し、教育環境の向上が図られた。 <p>【今後の方向性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備したICT機器を活用するために研修を行い、情報教育の推進を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。
<p>小中学校の適正配置に向けた取組</p> <p>【教育企画課】</p>	<p>二戸市立小中学校適正配置基本方針に基づき、適正な配置を目指す</p>	<p>【終了】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度 事業終了 	<p>◎評価 【 】</p>
<p>項目</p>	<p>②学校施設整備の推進</p>		
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
<p>小中学校リフレッシュ事業</p> <p>【教育企画課】</p>	<p>施設の安全確保と長寿命化を図る</p>	<p>【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の安全確保と長寿命化を図るため、次の工事を実施した。 <p>中央小学校トイレ改修工事</p> <p>洋便器7基、和便器31基</p> <p>→洋便器27基 (洋式化100%)</p>	<p>◎評価 【A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央小学校トイレ改修工事については、洋式化を行い、トイレ環境の改善を図った。改修により市内小中学校のトイレ洋式化率は77.6%となった。 ・改修工事等を計画どおりに実施し、児童生徒の安全かつ快適な学習環境を確保することができた。 <p>【今後の方向性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続的に予算を確保しながら、計画的な改修に努める。

分野3 社会教育の充実

施策 (1) 教育振興運動を基盤とした教育力の向上			
項目 ①教育振興運動の推進			
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
各学校における家庭教育学級の開催 (地域学校協働推進事業) 【生涯学習課】	家庭・学校・地域の連携を深め、家庭・地域の教育力向上に努める	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全実践区（全小中学校）において家庭教育に関する幅広い内容で「家庭教育学級」を開催した。 <p>【数値目標】 家庭教育学級開催数(回) H32：48</p>	<p>◎評価【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、外部講師の招聘が難しく実施回数は減少したが、各実践区（各学校）が主体となって家庭教育に活かせる様々な学びの機会の提供に努め、教育力の向上につなげることができた。 <p>[今後の方向性等] ・今後も各実践区と連携しながら学びの機会を提供していく。</p> <p>【数値目標の実績】 家庭教育学級開催数(回) R2：延べ33回（対H32目標 68.8%）</p>
教育振興運動集約集会の開催 (地域学校協働推進事業) 【生涯学習課】	地域の教育課題や解決方法について共通理解を図り、教育振興運動の基本理念と運動の進め方について理解を深める	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践区の活動状況の発表、意見交流、教育振興運動の基本理念や全県共通課題の取り組みについての説明、家庭教育に関して、現代における親子関係の実態や変化、子育て等の講演を実施する予定であったが、コロナ禍により中止した。 	<p>◎評価【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により中止した。 ・実践区の活動成果や課題の共有、教育振興運動推進の意識高揚に努めるため、前年まで配布していた資料を作成し、関係者に配布した。 <p>[今後の方向性等] ・子どもを中心に家庭・学校・地域等が連携を深め子どもの育つよりよい環境づくりに努めていく。</p>
「家庭教育の手引き」の発刊 (地域学校協働推進事業) 【生涯学習課】	家庭での学習の取組み方や望ましい生活習慣の身につけさせ方について啓発を図る	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生から中学校3年生までの子どもの発達段階に応じた家庭での家庭学習、生活、読書など学習環境づくりを具体的に紹介している手引きで、市内の全児童生徒の保護者に配布した。 ・教育委員会ホームページへ掲載した。 	<p>◎評価【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭教育の手引き」をホームページに掲載し、活用しやすい環境を整えることができた。 ・学習指導要領の改訂に伴い、学習指導等に対応し家庭での活用に適した内容へ見直し、発刊した。 <p>[今後の方向性等] ・家庭教育での活用につながる内容づくりや情報提供に努めていく。 ・学習指導要領の改訂に対応した「家庭教育の手引き」を発行・配布する。</p>

事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
<p>にのへ土曜 チャレンジ 塾事業</p> <p>【教育企画課】</p>	<p>中学生1・2年生を対象に、郷土の歴史、文化等にふれ、楽しく体を動かすなどの機会を提供し、土曜日の教育環境充実を図る</p>	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校1・2年生を対象に3回実施した。 (①R2.9.19②R2.11.7③R2.12.5) ・対象生徒数：423人 ・参加実人数：348人 ・実施内容：10メニュー <ol style="list-style-type: none"> 1 槻蔭舎きぼう塾(菘ヶ坂トレーニング) R2.11.7実施、12人参加 2 ニュースポーツ体験(二戸体育館) 全3回実施、延べ48人参加 3 読書(市立図書館) 全3回実施、延べ51人参加 4 読書(浄法寺かほろアセンター) 全3回実施、延べ31人参加 5 九戸城跡散策 全2回実施、延べ43人参加 6 自学自習(市役所、金田一コミュニティセンター) 全3回実施、延べ49人参加 7 ジュニア料理教室 全1回実施、延べ13人参加 8 文化祭鑑賞 R2.11.1とR2.11.3実施、75人参加 9 環境学習 R2.9.19実施、10人参加 10 科学実験 R2.12.5実施、16人参加 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体から協力を得て、多くのメニューで実施することができた。 ・学校の枠を越えた交流や、地域の素晴らしさを知る学習など、土曜日を活用した有意義な学びを提供することができた。 ・令和2年度は、コロナ禍により、メニューごとの参加人数を減らし、全3回のうち1人1回のみでの参加として実施した。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容の見直しを図り、令和3年度から市内小学校5、6年生対象の「ふるさと探訪塾」を実施する。
<p>放課後子ども教室の開催(地域学校協働推進事業)</p> <p>【生涯学習課】</p>	<p>地域の施設、人材などを活用し子どもたちが安心して活動できる場を確保し日常の中で多くの人と関わり体験的・交流的活動を行う機会を提供する</p>	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内6カ所で延べ977日開設、延べ14,283人が利用した。 ・中央小学校の「みなわ子ども教室」と二戸西小学校の「斗米地域子ども教室」は、児童クラブとの一体型として実施した。 ・夏休みと冬休み期間の2回、全利用者を対象にバスツアーを実施する予定であったが、コロナ禍により中止した。 ・指導者を対象に研修会を1回開催した。 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが安全で自主的な活動ができる居場所として地域の方々や学校と連携しながら開設、運営し、日常的に学年等を越えた交流や学習・創作活動、芸術文化・スポーツ体験の機会を提供することができた。 ・アンケートで、申込者が教室に満足している割合は96.8%であり、子どもが安心して活動できる場所が構築できていることを確認できた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や学校と連携しながら地域人材を活用し幅広い体験・交流活動機会を提供していく。

項目		③社会教育施設を拠点とした市民が行う学習活動の支援	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
<p>多様な学習ニーズにこたえる講座の開催</p> <p>【各公民館】</p>	<p>市民の生涯学習活動拠点として、市民の学習ニーズ、ライフステージに応じた講座など学習機会を提供する</p>	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報、ポスター、チラシ等による講座や教室の周知を図った。 ・ 各年代（少年、一般、高齢者）に応じた講座や教室を実施した。 ・ 文化祭の実施と各種サークルへ支援を行った。 <p>【数値目標】</p> <p>市立公民館講座実施回数(回)</p> <p>H32 : 207</p>	<p>◎評価 【 C 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍により開催できなかったものや人数制限をして開催したもの、またコロナの影響により参加者が集まらなかった等の理由により、講座実施数・参加者数が減少した。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き学習ニーズの把握に努めるとともに現代的課題の講座の実施や休日開催を増やし、市民が受講し易い環境を整備する。 <p>【数値目標の実績】</p> <p>市立公民館講座実施回数(回)</p> <p>R2 : 115 (対H32目標 55.6%)</p>
<p>社会教育団体の支援</p> <p>【生涯学習課】</p>	<p>次世代の育成や地域課題に取り組む社会教育団体へ支援を行い、地域の社会教育活動の推進につなげる</p>	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動した3団体に対し補助金を交付した。 二戸市ユネスコ協会 浄法寺ユネスコ協会 ガールスカウト岩手県第13団 ・ 活動に対する相談等へ対応した。 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育活動が促進されるよう、団体活動等への支援に努めた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育団体の活動状況把握に努めるとともに、継続して支援を行う。
<p>図書に親しむまち推進事業</p> <p>【図書館】</p>	<p>幼児期から本に親しむ習慣を培い理解力を育てよう児童図書の充実と読書を推進していく</p>	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブックスタート（10カ月児）乳児115人に絵本を贈呈した。 ・ おはなしデビュー（3歳児）幼児131人に絵本を贈呈した。 <p>【数値目標】</p> <p>図書貸出冊数（冊）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市立図書館 H32 : 92,000 ・ カシオペアセンター図書室 H32 : 6,500 	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10ヶ月児・3歳児に絵本の贈呈を実施し、読書に親しむ機会を提供することができた。 ・ コロナ禍による休館や感染を警戒してかつこう号の利用を休止する施設もあり、数値目標に達することができなかったが、カシオペアセンターは前年度より貸出冊数が増加した。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本の贈呈を継続し、幼児期から図書に親しむ機会を提供するとともに、フォローアップ事業の企画や広報活動により貸出増加につながるよう努める。 <p>【数値目標の実績】</p> <p>図書貸出冊数（冊）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市立図書館 R2 : 87,488 (対H32目標 95.1%) ・ カシオペアセンター図書室 R2 : 5,674 (対H32目標 87.3%)

項目		④指導体制の充実	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
専門職員の配置 【生涯学習課】	相談等に対し適正な指導・助言ができるよう専門職員を配置し、指導体制を強化する	[継続] ・継続して社会教育主事や社会教育指導員を配置し、指導助言を行った。	◎評価 【 A 】 ・関係機関と連携し専門職員による適切な助言、指導に努めた。また、県主催の研修会等に参加し、専門職員の資質向上に努めた。 [今後の方向性等] ・社会教育行政に関わる職員、配置が義務づけられている社会教育主事の養成に努める。
各種研修や大会等への社会教育関係者の参加 【生涯学習課】	社会教育事業を推進するために、社会教育行政に関わる職員等の計画的な養成、関係者の資質向上に努める	[継続] ・県立生涯学習推進センターの研修を中心に県や県北教育事務所など各種研修会等へ学校関係者、社会教育・家庭教育関係者、職員等が参加した。 【数値目標】 県立生涯学習推進センター研修参加者数(人) H32 : 36	◎評価 【 B 】 ・コロナ禍により開催される研修会が減少したが、県立生涯学習推進センターのほか、県北教育事務所や県社会教育連絡協議会等関係機関の研修会に参加し知識の習得や資質向上に努めた。 [今後の方向性等] ・社会情勢の変化や地域課題解決に向けて幅広い知識、資質向上が求められており、日頃から学びを深めるとともに広く関係者への参加を促す。 【数値目標の実績】 県立生涯学習推進センター研修参加者数(人) R2 : 21 (対H32目標 58%)

施策	(2) 社会教育施設的环境整備
-----------	------------------------

項目		①公民館の整備	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
中央公民館整備の方向性の検討 【中央公民館】	老朽化の進んだ中央公民館のあり方、整備の方向性を検討する	[継続] ・修繕箇所や現状把握について内部協議を行った。人口減少や区画整理に伴う石切所公民館の新築移転と併せ、今後の公民館の在り方について検討した。	◎評価 【 C 】 ・施設の老朽化と今後の施設使用について、内部協議にとどまり、具体的な方向性につながる検討に至らなかった。 [今後の方向性等] ・個別施設計画に沿い、建替えや施設の集約化・複合化について慎重に検討を進める。
施設の計画的改修 【各公民館】	各公民館において、計画的な改修を行い適正な施設管理を行う	[継続] ・各公民館において施設修繕や設備更新を行った。 ○金田ーコミュニティセンター 体育館床下修繕 体育館雨漏り修繕 体育館壁修繕 体育館屋根排煙窓廻り雨漏り修繕 体育館輻射暖房機修繕 手洗器自動水栓化工事 ○中央公民館 玄関ドアヒンジ交換、下斗米分館屋根修繕 ○カシオペアセンター 1階女子トイレ漏水修繕 2階トイレ洗面台排水管トラップ修繕	◎評価 【 A 】 ・施設修繕と老朽化した設備の更新を実施した。また、石切所公民館の新築移転については今後のスケジュール等を検討し、令和3年度移転へ向けて取り組んだ。 [今後の方向性等] ・施設利用者の安全を第一とし、要望等も考慮しながら施設修繕を行い、利用しやすい環境整備に努める。また、市公民館の役割と今後の方向性を整理し、社会の変化に対応した施設の在り方を関係機関と協議、検討する。

分野4 芸術文化の振興

施策 (1) 芸術文化の振興			
項目 ①芸術文化団体・郷土芸能保存団体への活動支援			
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
芸術文化団体の育成 【生涯学習課】	芸術活動への参加の機会や芸術鑑賞の機会を提供し、芸術文化の振興を図る	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化団体の活動に対し補助金を交付した。 二戸市芸術文化協会 浄法寺芸能協会 ・令和2年度二戸市民文士劇はコロナ禍により中止した。 	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化団体へ補助金を交付し、市民の自主的な芸術文化活動を支援した。活動する各団体は、活動の成果を披露し、地域の伝統文化を発信するとともに、市民が芸術文化に触れる機会を提供することができた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が主体となった芸術文化活動への支援を継続して実施するとともに、体験や発表の機会提供に努める。
文化祭の開催 【生涯学習課】	市民の芸術文化活動の発表の場として、文化祭を開催する	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭の開催について2団体へ委託した。 二戸会場：二戸市芸術文化協会 浄法寺会場：浄法寺地区文化祭実行委員会 <p>【数値目標】</p> <p>文化祭の入場者数(人) H32 : 5,500</p>	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台公演に関しては、演劇を除き定期公演をしている4団体がコロナ禍により公演を中止した影響で大幅に減少した。展示部門に関しては、出展者数減少などにより、例年より少ない市内3会場で開催した。感染対策を講じながら、地域文化の継承や市民が自主的に文化芸術活動に親しむために活動発表や交流する場の提供に努めた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動再開や、コロナ禍での活動に対する支援を行う。 ・若い世代をはじめ幅広い年代の市民が芸術文化に親しみ体験、発表する機会の提供に努める。 <p>【数値目標の実績】</p> <p>文化祭の入場者数(人) R2 : 1,226 (対H32目標 22.3%)</p>
郷土芸能保存団体の育成 【文化財課】	郷土芸能団体の技術的な向上と継承、活動の活性化を図る	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市指定無形民俗文化財(民俗芸能)団体17団体のうち、活動をしている11団体に対し育成補助金を交付した。 呑香稲荷神社神代神楽保存会 下斗米山伏神楽保存会 武内神社神楽保存会 坂本七ツ物保存会 金田一神楽保存会 上米沢鹿踊り保存会 深山神社神楽保存会 駒ヶ嶺新山神楽保存会 大森大神楽保存会 浄法寺七ツ物保存会 浄法寺鹿踊り保存会 ・文化財愛護少年団育成補助金を交付した。 下斗米文化財愛護少年団育成会 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12団体へ育成補助金を交付した。 ・多くの団体が後継者不足や財政的な課題がある中、補助金の交付により活動を支援することができた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、財政的支援を行い、郷土芸能祭の開催支援などと併せて、郷土芸能について市民への周知を図る。 ・後継者の確保など各団体が抱える課題について、連絡協議会などの場で協議検討を行い課題解決へつなげる。

事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
二戸市郷土芸能祭の開催支援 【文化財課】	郷土芸能祭の開催を支援し、郷土芸能活動の活性化を図る	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催支援を行っている二戸市郷土芸能祭は、コロナ禍により中止となった。 二戸地区郷土芸能発表会(軽米町) コロナ禍により中止 北緯40° ナニヤトヤラ連邦郷土芸能交流祭 コロナ禍により中止 <p>【数値目標】 郷土芸能祭の入場者数(人) H32 : 500</p>	<p>◎評価 【 ー 】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、郷土芸能祭や各種イベントでの郷土芸能披露及び視察研修を実施することができなかった。 <p>【今後の方向性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土芸能祭の開催支援や各種イベント出演情報の提供を行う。 <p>【数値目標の実績】 郷土芸能祭の入場者数(人) R2 : 未実施</p>
項目	②芸術鑑賞等文化事業の充実		
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
芸術鑑賞事業の実施 【生涯学習課】	優れた芸術文化の鑑賞の機会を提供するため、舞台や音楽などの鑑賞事業を開催	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> 自主文化事業の開催 小・中学生を対象とした映画鑑賞(学校鑑賞事業)や一般等を対象とした演劇、ロビーコンサートを実施した。 コロナ禍により予定していた事業のほとんどが実施できなかった。 <p>【数値目標】 開催事業入場者数(人) H32 : 8,000</p>	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般鑑賞事業は、参加しやすい事業を企画したが、コロナ禍により予定していた事業がほとんど実施できなかった。しかし、学校鑑賞事業は、開催内容の変更および人数制限等工夫を凝らして実施することができた。 <p>【今後の方向性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもから大人まで、市民が優れた芸術文化を鑑賞する機会や、気軽に芸術文化に親しみ参加できる機会の提供に努める。 <p>【数値目標の実績】 開催事業入場者数(人) R2 : 942 (対H32目標 11.8%)</p>
項目	③文化施設の整備・充実		
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
市民文化会館リフレッシュ事業 【生涯学習課】	計画的な改修を行い、施設の適正な維持管理に努める	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化施設リフレッシュ計画に基づき、施設の計画的な改修及び維持管理に努めた。 大ホール舞台照明負荷設備改修工事 大ホール音響設備更新工事 保護継電器更新工事 空調設備等改修工事 手洗器自動水栓化工事 <p>【数値目標】 市民文化会館利用者数(人) H32 : 55,000</p>	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化施設リフレッシュ計画に基づき、施設管理は適正に行われた。 <p>【今後の方向性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 優先順位を精査しながら計画的な施設の改修を進め、利用しやすい環境づくりに努めるとともに、指定管理者や関係機関と連携し、利用促進に向けた工夫に取り組んでいく。 <p>【数値目標の実績】 市民文化会館利用者数(人) R2 : 21,579 (対H32目標 39.2%)</p>
浄法寺文化交流センター改修事業 【Jホール】	計画的な改修を行い、施設の適正な維持管理に努める	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> 舞台機構設備更新工事を実施した。 手洗器自動水栓化工事 <p>【数値目標】 文化交流センター利用者数(人) H32 : 11,000</p>	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画に沿って修繕や施設管理を実施し、利用者の安全確保に努めた。 <p>【今後の方向性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 優先順位を精査しつつ、計画的な施設の改修を進める。 <p>【数値目標の実績】 文化交流センター利用者数(人) R2 : 4,884 (対H32目標 44.4%)</p>

施策		(2) 文化財の保護と活用	
項目		①天台寺本堂・仁王門保存修理事業の促進	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
天台寺修復事業 【文化財課】	重要文化財である天台寺の本堂・仁王門の解体修理を支援・推進する	[終了] 令和元年度、事業終了	◎評価 【 】
項目		②史跡九戸城跡の保護と活用	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
史跡九戸城跡土地買上事業 【文化財課】	国史跡九戸城跡指定地を公有化し、保存措置を講ずる	[継続] ・史跡九戸城跡の公有化対象地5筆(2,078.3㎡)の公有化を実施した。 ・公有化計画総面積189,620.23㎡に対し、完了面積は183,808.58㎡となっている。(総面積に占める割合96.9%)	◎評価 【 A 】 ・予定していた公有化をすべて完了した。 【今後の方向性等】 ・残る公有化対象地の地権者の意向確認、買上計画を策定して協議を進める。
史跡九戸城跡環境整備事業 【文化財課】	国史跡九戸城跡の公園化	[継続] ・史跡九戸城跡の第2期整備実施設計(二の丸東側上下段平場地区)を策定した。 ・本丸地区、二の丸地区の整備工事を実施した。	◎評価 【 B 】 ・実施設計は計画どおり終了している。 ・整備工事は、コロナの影響により資材調達に遅れが生じたため、繰り越している。 【今後の方向性等】 ・第2次整備基本計画に基づき、史跡九戸城跡整備指導委員会の指導のもと、計画的に史跡整備を進めていく。 ・繰越工事については、令和3年度の工事工程と調整し、滞りなく実施する。
史跡九戸城跡保護活用事業 【文化財課】	国史跡九戸城跡の保護、活用	[継続] ・整備指導委員会を開催(2回)した。 協議内容 第2期整備実施設計 発掘調査の検討 令和2年度の事業実施状況 ・九戸城を活かす会へ補助金を交付した。	◎評価 【 A 】 ・整備指導委員会を開催し、適切な史跡の保護、活用の方向性を確認することができた。 ・九戸城跡に関係する団体への支援を行い、九戸城跡の保護、活用の推進を図ることができた。 【今後の方向性等】 ・引き続き、環境整備事業と併せて適切な保護、活用に努める。
九戸城情報発信・活用事業 【文化財課】	国史跡九戸城跡の情報発信、活用	[継続] ・史跡九戸城跡のパンフレット・リーフレットを配布した。 ・南部「御城印」プロジェクトに伴う御城印を販売した。 【数値目標】 年間来訪者数(人) (ボランティアガイド案内者数) H32: 4,500	◎評価 【 A 】 ・コロナ禍により、ガイド数、来訪者が大幅に減少したが、パンフレット・リーフレットの配布や御城印の販売などに取り組み、情報発信に努めた。 【今後の方向性等】 ・引き続き、情報発信に努め、来訪者の増加や認知度の向上に努める。 【数値目標の実績】 年間来訪者数(人) (ボランティアガイド案内者数) R2: 376(対H32目標8.4%)

項目		③その他文化財の保護と活用	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
文化財保護事業 【文化財課】	文化財等の保護・活用	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二戸市文化財調査委員会議を開催（2回）した。 ・「折爪岳のヒメボタル生息地」保存活用計画の策定検討を行った。 ・市指定文化財悉皆調査の実施（23件） ・指定候補文化財調査の実施（2件） 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財調査委員会議を開催したほか、指定文化財悉皆調査、指定候補文化財調査を実施し、適切に文化財の保護、活用を図った。 ・「折爪岳のヒメボタル生息地」保存活用計画の策定に向けて調査研究を進めた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「折爪岳のヒメボタル生息地」保存活用計画策定を進め、適切な文化財の保護、活用に努める。 ・市指定文化財悉皆調査、指定候補案件は引き続き実施していく。
日本遺産申請事業 【文化財課】	文化財の活用を図るため、日本遺産認定を目指す。	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度日本遺産に認定された。（R2.6.19） ・日本遺産奥南部漆物語推進協議会を設立した。（R2.8.11） 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二戸市と八幡平市が共同申請した「奥南部”漆物語～安比川流域に受け継がれる伝統技術～」が令和2年度日本遺産に認定された。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産奥南部漆物語推進協議会により、奥南部漆物語を活用した両市の地域活性化を図っていく。
埋蔵文化財発掘調査事業 【文化財課】	埋蔵文化財包蔵地の保護	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内遺跡発掘調査事業を実施した。 <p>【個人住宅】橋場遺跡、三ノ丸遺跡、館I遺跡（3件）</p> <p>【史跡調査】史跡九戸城跡：本丸、二ノ丸大手虎口（1件）</p> <p>【民間開発】中曽根（1件）</p> <p>【公共事業】前小路遺跡、上里遺跡群（2件）</p>	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円滑かつ適切に調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の記録保存を行うことができた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も適切な調査に努める。 ・現地説明会や発掘調査報告会等を開催し、発掘調査及び遺跡の価値等について、理解度を深める取り組みを行う。
埋蔵文化財保存活用事業 【文化財課】	文化財保護の普及	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験学習を開催（2回）した。 ・スポット展示を実施（2回）した。 <p>[新規]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民歴史講座の開催4回 『地域の歴史から城館を探る』 <p>【数値目標】 埋蔵文化財センター入館者数(人) H32：550</p>	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策を実施したうえで体験学習を実施し、参加者に文化財の理解を深めてもらうことができた。 ・スポット展示を実施し、本報告前に発掘調査成果を公開することができた。 ・市民歴史講座は、コロナの影響で人数を60名に制限を実施したが、4回とも定員を超える申し込みがあった。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査報告会の開催、体験学習の企画、企画展の開催など埋蔵文化財の活用を推進する。 <p>【数値目標の実績】 埋蔵文化財センター入館者数(人) R2：932（対H32目標 169.5%）</p>

分野5 スポーツの推進

施策 (1) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進			
項目 ①生涯にわたるスポーツの推進			
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
スポーツ・交流大会・スポーツイベント・フォーラム等の開催 【生涯学習課】	子どもから高齢者まで、さまざまなライフステージでスポーツを楽しむことができる機会や地域住民のニーズに応じたスポーツ活動の環境の提供に努める	[継続] ・市体育協会や体力づくり振興会等と連携し、感染対策を講じ3大会を開催した。 市民総参加スポーツ大会 73人 市内少年野球大会 5チーム 市内スキー選手権大会 33人	◎評価 【 B 】 ・コロナ禍により中止した大会が多かったが、関係団体と協議し慎重に判断し感染対策をした上で、3大会を開催した。 ・市民総参加スポーツ大会は、雨の影響により開催できない競技があった。 [今後の方向性等] ・新型コロナ対策の動向を把握し、安全にスポーツ活動を提供できるよう努める。
健康スポーツ教室・出前講座 【生涯学習課】	心身の健康の保持増進やスポーツに参加するきっかけとなるような機会を提供する教室等の開催に努める	[継続] ・市体育協会や体力づくり振興会等と連携し、各種教室等を開催した。 水中運動教室 238人 浄法寺地区スポーツ教室 9人 にのへ土曜チャレンジ塾 (ニュースポーツ体験) 48人	◎評価 【 B 】 ・各種教室等については、幅広い世代の人たちを対象に開催し、スポーツに参加する機会を提供した。関係団体と協議し慎重に判断した上で、可能な教室を開催した。 [今後の方向性等] ・引き続き、心身の健康保持や増進、健康寿命を延ばすため、二戸市体育協会や関係機関との連携し、健康スポーツ教室等の開催に努める。 また、感染症対策に取り組み、より安全に各種教室等を開催できるよう努める。
スポーツ関連情報の提供 【生涯学習課】	各種大会の開催情報、結果情報を発信し、スポーツに対する意識の高揚と興味の増進に努める	[継続] ・市体育協会や各競技団体と連携を密にし、広報にのへやホームページを活用してスポーツ開催情報や結果の周知を図った。(お知らせ号へ毎月掲載)	◎評価 【 A 】 ・広報にのへやホームページを活用した情報提供に努めた。過去の大会結果や、広報にのへに掲載できなかった成績もホームページで紹介し、市民の活躍や取り組みの発信に努めた。 [今後の方向性等] ・広報、ホームページを活用し、迅速かつ的確に情報発信を行う。
項目 ②地域のスポーツ環境の整備			
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
スポーツ推進委員の研修会参加 【生涯学習課】	「スポーツを支える(育てる)人」としての研さんは不可欠であり、各種の研修会への積極的な参加を進め、資質の向上に努める	[継続] ・コロナ禍により予定した下記研修が全て中止となった。 岩手県初任者研修会 岩手県研修会 東北地区研修会 全国研究協議会	◎評価 【 - 】 ・コロナ禍により各研修は全て中止となった。 [今後の方向性等] ・引き続き、各種研修開催情報を把握し、情報提供に努め、スポーツ推進委員の資質向上に努める。

事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
総合型地域スポーツクラブの支援・育成 【生涯学習課】	身近な地域でスポーツに親しむことのできる環境を充実させるため、地域住民の自主的な運営を目指す「総合型地域スポーツクラブ」の支援、育成に努める	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> 浄法寺スポーツクラブ、氷上スポーツクラブの活動に対し、広報等での周知により支援を行った。 <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブ数(団体) H32 : 3 加入者数(人) H32 : 500 	<p>◎評価 【 C 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規に創設を目指す団体の発掘や新クラブ創設への支援はなかったが、既存クラブへの支援は計画どおり実施できた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、既団体の支援とともに新たな団体が創設された場合には支援に努める。 <p>【数値目標の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブ数(団体) R2 : 2 (対H32目標 66.7%) 加入者数(人) R2 : 312 (対H32目標 62.4%)
項目	③スポーツを通じた健康づくりの推進		
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
スポーツ指導者講習会の開催 【生涯学習課】	各地域において、心身の健康の保持増進等を気軽に取り組むことができる環境を整えるため、環境を支える人材の育成に努める	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> 市体育協会等と連携し、指導者講習会を開催した。 <p>スポーツ少年団指導者講習会</p>	<p>◎評価 【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講習会を開催し、指導者の資質向上・人材育成の機会を提供し、講習会を開催した。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、他団体の開催情報を把握し、講習会参加を促すなど参加者の資質向上に努めると共に、参加者を増やす取組も検討する。
項目	④スポーツ施設の整備・充実		
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
学校体育施設開放事業 【生涯学習課】	多くの市民がスポーツに触れ合えるために、スポーツ施設や学校体育施設の効果的・効率的な活用に努める	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の体育施設を開放することにより、スポーツ活動に取り組みやすい環境づくりに努めた。 <p>6団体 90回 620人</p>	<p>◎評価 【 C 】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により利用回数・利用人数が減少したが、学校体育施設の開放に努めた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、施設の有効活用に努める。
スポーツ施設の計画的改修 【生涯学習課】	老朽化が進んでいるスポーツ施設は計画的に整備・改修を進める	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合スポーツセンター修繕工事 総合スポーツセンター事務室エアコン修繕 総合スポーツセンター非常用発電機蓄電池修繕 大平球場送水管漏水修繕 大平球場照明灯修繕 浄法寺体育館防火水槽水漏れ修繕 	<p>◎評価 【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 老朽化の状態に応じて、計画的かつ適切に改修を進めた。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者、利用団体、指定管理者と協議を重ね、安全な施設運営に必要な整備・改修を進める。
スポーツ施設整備基本構想の策定 【生涯学習課】	市民が、安全に楽しくスポーツに親しめ心身の健康保持、増進を推進するとともに、全国レベルの選手の育成・強化を図る環境整備のため基本構想の策定をする	<p>[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文教施設指定管理等検討委員会において、体育施設に関して検討することができず、修繕等予算の検討にとどまった 	<p>◎評価 【 C 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存のスポーツ施設について、施設の維持に関しては検討を行った。スポーツ施設整備基本構想の策定には至らなかった。 <p>[今後の方向性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設全体の基本構想の策定にむけ、利用者、利用団体等とも協議し、市民が安全にスポーツに取り組める環境整備・施設整備について検討を進めていく。

施策		(2) 競技力向上に向けた選手の育成と指導者の養成	
項目		①選手の育成・強化と競技力の向上	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
各種スポーツ団体の育成・支援 【生涯学習課】	各種競技人口の増加と競技力の向上を図るため、学校部活動、地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等と連携に努める	[継続] ・各種スポーツ団体の活動に対し、補助金等の支援を行った。 いわて国体記念スポーツ交流事業補助金 市体育協会補助金 市スポーツ少年団補助金 市体力づくり振興会補助金	◎評価 【 A 】 ・コロナ禍により、各種大会等は中止や縮小となった。それに伴い、補助対象団体数や補助金額が減少となったものの、各種団体へ補助を行い、活動支援を行った。 【今後の方向性等】 ・補助事業の周知徹底を図り、引き続き、各種団体等に対して支援を行うと共に、健全な団体育成に努める。
各種スポーツ教室の開催 【生涯学習課】		[継続] ・市体育協会や各競技団体等と連携し、各種教室等を開催した。 柔道・剣道教室 63人 スキー選手権大会 33人	◎評価 【 A 】 ・各種教室等は小中学生を対象とし、新型コロナ対策を徹底することで計画どおり開催した。技術等の向上に努めた。 【今後の方向性等】 ・競技者や各種団体の意向を把握し、スポーツ教室等を開催する。
「二戸市小・中学生スポーツ活動指針」に係る調査の継続 【生涯学習課】	小中学生の健全な心身の育成につながるスポーツ活動の実態把握のため調査を行う	[継続] 各学校、スポーツ少年団等に対しスポーツ活動指針（改訂版）の周知に努めた。	◎評価 【 B 】 ・県の方針改定に伴い、「二戸市小学生・中学生スポーツ活動指針」を平成31年4月に改訂した。令和2年度も各学校、スポーツ少年団等への周知に努めた。 【今後の方向性等】 ・二戸市小・中学生スポーツ活動指針（H31.4月改訂版）の周知と共に、現状把握調査を行い、小・中学生の健全な心身の育成に努めるよう指導者等の協力を得ていく。
項目		②トップアスリートにふれる機会の創出	
事業名	目的	令和2年度の取組状況	評価及び今後の方向性等
トップアスリート等によるスポーツ教室・講演会等の開催 【生涯学習課】	夢や希望を育み、競技力を向上させる意識高揚を図るため、トップアスリート等によるスポーツ教室・講演会等を開催する	[継続] ・県、三圏域の共催により、サッカー教室を開催し、高い技術に触れる機会を創出した。	◎評価 【 A 】 ・北緯40度ナニヤトヤラ連邦事業において、県北振興局と共催し、サッカー教室を開催し、トップアスリートと交流する機会を創出した。 【今後の方向性等】 ・各種団体等と連携し、トップアスリート等によるスポーツ教室・講演会等の開催について、情報発信にも努めていく。

